

# おかざき 生きもの図鑑

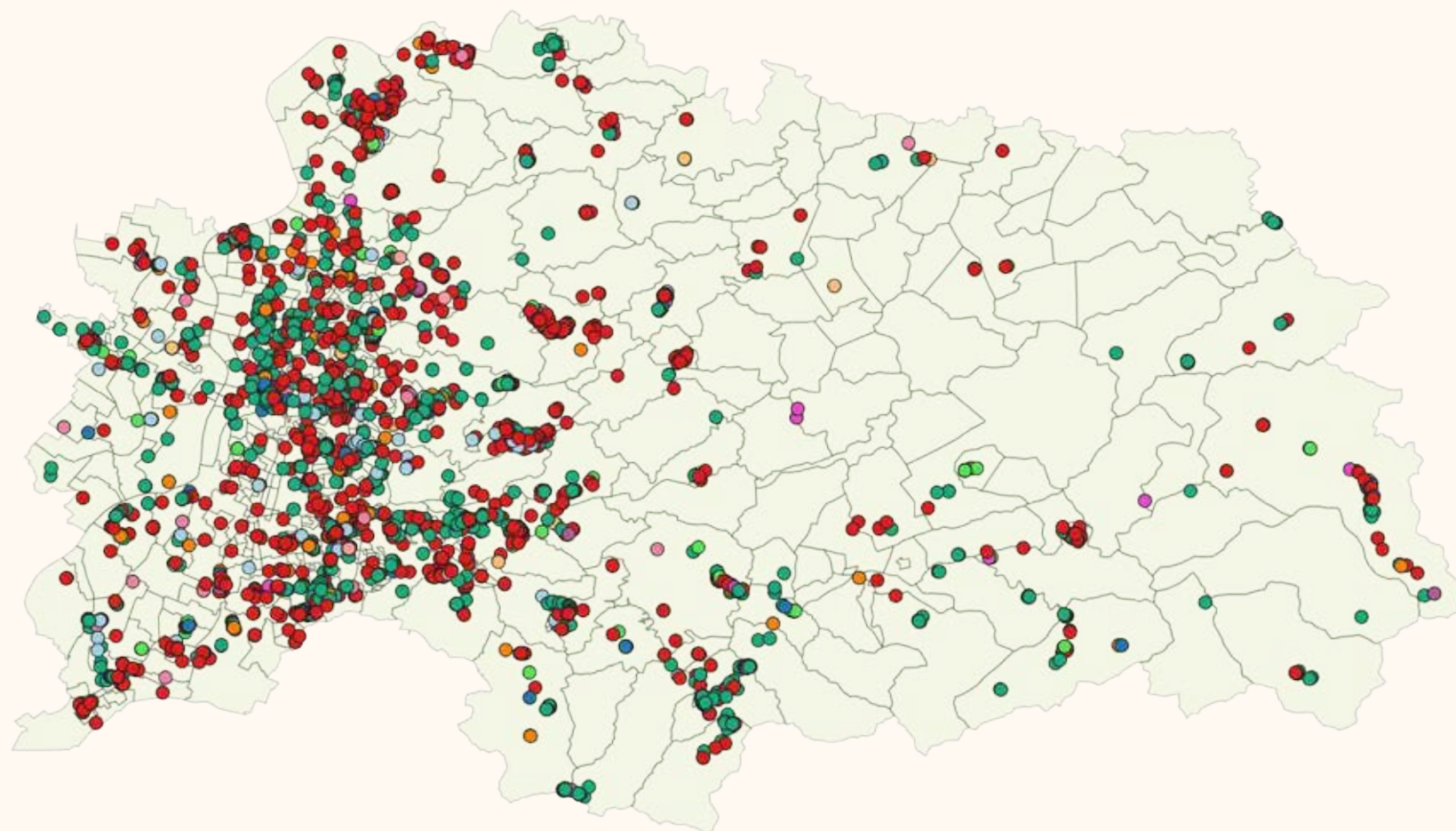
湿地や溪谷、自然林や里地里山など、多様で豊かな自然環境が存在している岡崎。このような豊かな自然とこれからも共に生きていく

ため、岡崎市は令和6年に「岡崎市ネイチャーポジティブ宣言※」を行いました。

これを記念し、令和6年8月14日から令和6年10月13日までの間、市民の皆さんに参加いただき、生きもの調査「みんなでつくるおかざき生きもの図鑑～アプリでいきものゲットだぜ！～」を実施しました。この図鑑は、生きもの調査の結果をもとに作成しています。

※生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること。

## みんなで発見！おかざきの生きもの



昆虫・クモ  
種子植物  
は虫類

両生類  
鳥類  
魚類

哺乳類  
甲殻類  
軟体動物

その他植物  
その他動物

※地図上の点は調査期間内に岡崎市全域からアプリ「Biome」に寄せられた全投稿の各登録地点を示します  
※分類群登録はアプリユーザー自身によるもののため一部不確かなものが含まれている可能性があります

見つけた数

4,967

件

見つけた種数

1,409

種類

参加者数

505

人

未来環境創造戦士エコマンダー  
エコマグリーン忠勝

## 発見数が多かった 生きものたち

1

ショウリョウバッタ



報告件数  
85 件

2

アブラゼミ



報告件数  
64 件

3

ニホンアマガエル



報告件数  
53 件

# おかざきの生きもの

岡崎市には、<sup>まち</sup>街、<sup>みずべ</sup>里山、<sup>しっち</sup>水辺、<sup>しんりん</sup>森林、<sup>しつち</sup>湿地など様々な環境があり、そこにはそれぞれの環境に<sup>てきおう</sup>適応した生きものが暮らしています。  
自然の中では、たくさんの<sup>しゅるい</sup>種類の生きものが個性をもって、<sup>つな</sup>繋がり、<sup>ささあ</sup>支え合いながら生きています。これを「生物多様性」と呼びます。

## 街・住宅地の生きもの

### ヨウシュヤマゴボウ

<sup>もく</sup>ナデシコ目ヤマゴボウ科  
<sup>あかむらさきいろ</sup>赤紫色の花茎に<sup>かじつ</sup>黒い果実が特徴で、<sup>みちばた</sup>道端などで見られます。根が太くゴボウに似ていますが、植物全体に<sup>どく</sup>毒があり食べられません。



### チャバネセセリ

<sup>チョウ</sup>チョウ目セセリチョウ科  
春から秋にかけて見られるセセリチョウのなかまです。<sup>ようちゅう</sup>幼虫はイネ科の植物を食草とし、<sup>せいちゅう</sup>成虫は花壇などで見られます。



### イソヒヨドリ

<sup>スズメ</sup>スズメ目ヒタキ科  
「ピーツツピーピー」<sup>など</sup>等と鳴きます。元々は岩場が多い海岸に生息していましたが、最近では<sup>さいきん</sup>都市部や<sup>ないりく</sup>内陸へ進出しています。



## 里山の生きもの

### ヤマトタマムシ

<sup>コウチュウ</sup>コウチュウ目タマムシ科  
<sup>きんぞくこうたく</sup>緑色の金属光沢が美しいタマムシです。昼間はエノキやケヤキが生える<sup>こうようじゅりん</sup>広葉樹林を飛び回ります。



### カラスウリ

<sup>ウリ</sup>ウリ目ウリ科  
<sup>かお</sup>香りがある、<sup>じょう</sup>白いレース状の花を夜に咲かせます。秋になると良く目立つ<sup>しゅいろ</sup>朱色の果実をつけます。



### ニホンカナヘビ

<sup>ゆうび</sup>有尾目カナヘビ科  
<sup>こ</sup>日本固有種のカナヘビです。<sup>うろこ</sup>鱗に光沢はなくザラザラしているように見えます。昼間に地面を這ってエサを探します。



## 森の生きもの

### ツチアケビ

<sup>キジカクシ</sup>キジカクシ目ラン科  
<sup>こうごうせい</sup>光合成を行わず<sup>きんるい</sup>菌類から<sup>えいよう</sup>栄養素をもらって育つ「腐生植物」です。夏に<sup>おうかつしよく</sup>黄褐色の花を咲かせ、その後<sup>ま</sup>真っ赤な果実をつけます。



### ミヤマクワガタ

<sup>コウチュウ</sup>コウチュウ目クワガタムシ科  
広葉樹林でみられる大型のクワガタ<sup>おおがた</sup>ムシです。オスの成虫の頭には「<sup>じょうとつき</sup>耳状突起」という耳のように<sup>りょうがわ</sup>両側に張り出した突起があります。



## 湿地の生きもの

### アギスミレ

<sup>キントラノオ</sup>キントラノオ目スミレ科  
<sup>この</sup>湿地を好むスミレのなかまです。<sup>しろう</sup>ブーメラン状の葉が特徴で、4月～5月に<sup>しよく</sup>紫色の模様がある<sup>もよう</sup>白い花を咲かせます。



### サワヒヨドリ

<sup>キク</sup>キク目キク科  
日当たりのよい湿地に生えます。夏から秋にかけて、<sup>うす</sup>薄い赤紫色の小花をたくさんつけます。



## 水辺の生きもの

### カワウ

<sup>カツオドリ</sup>カツオドリ目ウ科  
<sup>か</sup>河川や湖で見られる<sup>りゅうちよう</sup>留鳥です。<sup>せんすい</sup>潜水が得意で、魚や甲殻類を<sup>つか</sup>捕まえて食べます。水に濡れた後は日光浴でからだを温めます。



### ハグロトンボ

<sup>トンボ</sup>トンボ目カワトンボ科  
<sup>ゆる</sup>緩やかな流れの川で見られる川トンボのなかまです。名前の通り<sup>はね</sup>黒い翅が特徴です。



# おかざきでみつかった外来種

よぼうさんげんそく  
外来種予防三原則

入れない！ 捨てない！ 逃がさない！

## とくてい 特定外来生物

報告件数  
15件



### セアカゴケグモ

クモ目ヒメグモ科

メスは毒を持ちます。素手で触らないようにし、市販の殺虫剤で駆除してください。市内では平成25年に初めて確認されて以来、広範囲で定着しています。

## 特定外来生物

報告件数  
20件



### アカボシゴマダラ (大陸亜種)

チョウ目タテハチョウ科

ゴマダラチョウなど外来種のチョウとの競合が心配されています。飼育や生きたままの運搬、野に放つことは原則禁止です。駆除する場合は幼虫時が効果的です。

## よう 要注意外来生物

報告件数  
9件



### シチヘンゲ

シソ目クマツヅラ科

繁殖力が強く、世界の侵略的外来生物ワースト100に選ばれています。茎にある棘に注意しながら、根こそぎ抜き取ってください。種子の発芽能力は長期間維持されるため、果実が成熟する前に駆除しましょう。

## 注目の外来種

### ムネアカハラビロカマキリ

カマキリ目カマキリ科

報告件数  
43件

どうやって日本に？

卵がくっついた竹箒を中国から輸入したことによって侵入したと考えられています。

## 注目ポイント

国内では、外来種であるムネアカハラビロカマキリが増え、在来種のハラビロカマキリが減る、「置き換わり」が起こっている地域があります。今回の調査では、ムネアカハラビロカマキリの方が多く見つかっており、今後岡崎市でも「置き換わり」が生じるのが心配されています。この2種はカマの突起や胸部の特徴で見分けることができます。

|       | ムネアカハラビロカマキリ | ハラビロカマキリ     |
|-------|--------------|--------------|
| カマの突起 | 小さいものが9つ     | 大きいものが3つ     |
| 胸部の腹側 | 全体が赤っぽい      | 赤くない、たびたび縞模様 |



▼ハラビロカマキリ (在来種)  
※こちらの写真はクエスト対象外の投稿の写真です

## 外来種はどうやって日本にやってくるの？



外国からの荷物に  
紛れ込んで



牧草や農産物、  
家畜や食用として



ペットや  
観賞目的で

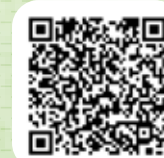
## ペットを飼う時は責任を持って最後まで飼おう！

現在問題になっている外来種の中には、かつてペットとして日本に輸入されてきたものも多くいます。生き物を飼うときは、最後まで育てられるかよく考えてから飼いましょう。

もっと知りたいかたへ

## 愛知県特定外来生物対策 ハンドブック

愛知県で特定外来生物として指定されている生きものの生態や、防除方法について知ることができます。



詳しくはこちら



# おかざきの希少種

人間の活動による影響が原因で、地球ではたくさんの生きものたちが絶滅の危機にあります。岡崎市でも、494種の生きものたちが絶滅の恐れがあるとしてレッドリストに記載されています。



サギソウ

キジカクシ目ラン科

シラサギが羽を広げたような形の花を咲かせます。日当たりの良い湿地に生えますが、乱獲や湿地の減少などで減少しています。



シロチドリ

チドリ目チドリ科

砂浜や干潟、河川敷などに生息します。開発による河川や海岸の環境破壊で生息・繁殖が困難となり、数を減らしています。



アカザ

ナマズ目アカザ科

水温が低い川の中流・上流域の川底に生息し、「水のきれいさ」の生物指標として扱われます。河川改修などによる生息適地の減少によって、数が減っています。



アカハライモリ

有尾目イモリ科

赤い腹部が特徴的な日本固有種のイモリです。田園地帯や森林に囲まれた水辺で見られます。水質汚濁や環境破壊、外来種の影響により減少しています。



ハグロソウ

シソ目キツネノマゴ科

山地の林内や林縁の木陰に生え、紫色の小さな花を咲かせます。かつてはたくさん見られましたが、近年は環境破壊などにより数を減らしています。

VU：岡崎市レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類 NT：岡崎市レッドリスト準絶滅危惧

## 私たちは自然と共に生きている

今回の調査では、さまざまな種類の生きものを見つけることができました。身近な生き物に目を向けることで私たち人間が“自然と共に生きている”ということを感じることができたのではないのでしょうか。私たちも、今回見つけた生きものたちと同じ、自然に生きる一員であり、自然のめぐみによって支えられています。

岡崎の自然について知ることは、自然の豊かさや生物多様性を守るための第一歩となります。自然や生きものに目を向け、私たちに今何ができるのかを考えてみましょう。

もっと知りたいかたへ

## 生物多様性” 自然と共に生きる” ために 私たちができること

生物多様性とはなにか、どうして生きものが減っているのか、生きものが減ると何が困るのか、私たちにどんなことができるのかを分かりやすく紹介しています。



▲詳しくは  
こちら

